

## 平成 25 年 8 月の解説（週間天気予報）

### 【8月の天候状況】

上旬は太平洋高気圧の勢力が強く、沖縄・奄美や西日本では晴れて厳しい暑さが続きました。旬の後半は東日本でも晴れの日が多く、旬の終わりは東日本以西の各地で猛暑日となりました。一方、北日本と東日本日本海側は前線や気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。9日は、秋田県・岩手県で記録的な豪雨となり、河川の増水や土砂災害が発生しました。旬平均気温は、西日本と沖縄・奄美でかなり高くなりました。

中旬は太平洋高気圧の勢力が強く、東・西日本では厳しい暑さが続き、連日、全国100地点以上で猛暑日となりました。12日は、江川崎（高知県）で日最高気温が41.0となり歴代全国1位を更新しました。沖縄・奄美でも晴れの日が多くなりましたが、湿った気流や台風第12号の影響で雨の日もありました。旬平均気温は、北・東・西日本でかなり高くなりました。旬降水量は、東日本太平洋側と西日本でかなり少なくなりました。

下旬は、旬の初めは、太平洋高気圧が張り出し、前線が日本海から東北地方に停滞しました。その後、前線が23日から26日にかけて日本海から本州の南海上へ南下したため、東・西日本では日本海側を中心に大雨となりました。24日は、島根県では浸水害や土砂災害が発生するなど記録的な豪雨となりました。月末は前線および台風第15号から変わった低気圧の影響で日本海側を中心に大雨となりました。沖縄・奄美では、旬を通して晴れの日が多くなりました。旬降水量は、北・東日本日本海側と西日本でかなり多くなりました。

月平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり高くなり、東・西日本では平年を1以上上回りました。16地点では8月の月平均気温の高い方からの1位を更新しました。月降水量は、北・東・西日本日本海側でかなり多くなり、浜田（島根県）では8月の月降水量の多い方からの1位を更新しました。一方、東日本太平洋側と沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側ではかなり多くなりました。

### 【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値<sup>（注）</sup>より2ポイント高い68%でした。地方毎の適中率は、北海道地方で例年値より13ポイント低いほかは例年値以上となり、西日本・沖縄地方では例年値より6～9ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より0.2大きい2.5となりました。地域毎の予報誤差は、北日本では例年値より0.3～0.4小さい一方、西日本では例年値より0.4～0.5大きくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より0.1大きい1.7となりました。地域毎の予報誤差は、北日本で例年値より0.3～0.4小さい一方、九州北部・九州南部地方では例年値より0.5～0.6ポイント大きくなりました。

<sup>（注）</sup>例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に少なくなり、気温も急速に下がっていきます。10月は秋晴れとなる日が多く行楽などで山に登る機会も増えますが、北日本や本州の標高の高い山では雪が降ることもあります。降雪や気温低下への対策に、週間天気予報の天気や気温の予報を活用して下さい。その際、週間天気予報で予報される気温は平野部を対象としているため、標高の高い山では予報よりも低くなる点に注意が必要です。